



ATIテクノロジーズジャパン

RAGE FURY MAXX

価格：オープンブライズ(実勢価格3万5000円)



POINT

ビデオチップにATIテクノロジーズのRAGE 128 PRO GLを2個搭載した高性能なビデオカード。ビデオメモリはビデオチップごとに32MBずつ搭載されている。3D処理性能は、シングルチップ動作時と比較して50%以上も高速化されることがある。

価格

オープンブライズ

問い合わせ先

ATIテクノロジーズジャパン
☎03-5275-2241

ビデオチップ

RAGE 128 PRO GL×2

対応バス

AGP 2X/4X

メモリ

32MB SDRAM (7ns) × 2

RAMDAC

300MHz (ビデオチップに内蔵)

最大解像度

1600×1200ドット/90Hz(32ビットカラー時)

対応OS

Windows 95/98

コストパフォーマンス



機能性/操作感



総合評価



RAGE 128 PRO GLを2個搭載

「RAGE FURY MAXX」は、RAGE 128 PRO GLを2個搭載した高速モデルである。複数のビデオチップによって3Dグラフィックス処理を飛躍的に向上させるMAXXテクノロジー(Multiple Asics Technology)の採用が大きな特徴となっている。

デュアルチップ駆動という点、3dfxのVoodoo2で採用されたSLI(Scan Line Interleave)を思い出すが、MAXXも目指す方向はほぼ同じと考えていい。ただし、SLIが走査線(奇数ラインと偶数ライン)ごとに処理するビデオチップを割り当てているのに対して、MAXXではフレーム(奇数フレームと偶数フレーム)ごとにビデオチップを割り当てている。このレンダリング手法を、同社ではAFR(Alternate Frame Rendering)と呼んでいる。それぞれのビデオチップは、もう一方のビデオチップと関係なく、自分が受け持つフレームのトライ



ディスプレイプロパティの詳細。ATIのディスプレイプロパティは非常に多機能である。とくにRAGE FURY MAXXには、シングルチップ動作とデュアルチップ動作を選択する項目が用意されている

ゲーマーにお勧め! ダブルRAGE 128 PRO GLカード

■WinBench 99 Ver.1.2

製品名	RAGE FURY MAXX シングルチップ①	RAGE FURY MAXX デュアルチップ(AFT)②	ELSA Synergy II③
Business Graphics WinMark 99	187	186	194
High-End Graphics WinMark 99	532	536	555

テスト環境

マザーボード: EPoX EP-BX6
CPU: Pentium III/500MHz (Katmaiコア)
メモリ: SDRAM 128MB CL=2 (PC/100対応)
HDD: Western Digital WD Expert 29100
OS: Windows 98 Second Edition

■3D WinBench 2000

	①	②	③
1024×768ドット・16ビットカラー	43.4	57.6	46
1024×768ドット・32ビットカラー	33.5	46.9	31.7
1280×1024ドット・16ビットカラー	29.6	43.1	30.6
1280×1024ドット・32ビットカラー	21	32.9	18.1

■3D Mark 2000

	①	②	③
1024×768ドット・16ビットカラー	2205	2800	2472
1024×768ドット・32ビットカラー	1821	2612	1814
1280×1024ドット・16ビットカラー	1517	2352	1734
1280×1024ドット・32ビットカラー	1167	1974	1044

■Quake III Arena

	①	②	③
1024×768ドット・16ビットカラー	34.2	51.8	38.8
1024×768ドット・32ビットカラー	28.9	48.4	27.6
1280×1024ドット・16ビットカラー	21.8	39.8	20.3
1280×1024ドット・32ビットカラー	17.5	32.8	15.5

アングルセットアップを行う。フレームが切り替わる時、前後のフレームが表

現する場面の変化はごくわずかな場合がほとんどなので、大半はビデオチップ間の負荷バランスをうまくとれるといった具合である。

なお、MAXXが有効なのは、フルスクリーン時の3Dグラフィックス処理のみなので、2Dグラフィックスやウィンドウモードの3Dグラフィックスについては、片方のチップのみが使用される。

各ビデオチップごとにビデオメモリが32MB

ビデオメモリは、ビデオチップごとに32MBずつ搭載されている。合計すると64MBになりかなり大容量だが、実際には各ビデオチップ専用メモリとしてそれぞれ割り当てられている関係で、表示可能な解像度や色数、3D処理に割り当てられる作業用スペース(テキストやZバッファなど)などは32MBのときとまったく変わらない。

RAGE FURY MAXXはハイエンド向けの製品ながら、ゲーマーに最適な高速描画のみにターゲットを絞っているため、同ビデオチップを搭載したRAGE FURY PROや ALL-IN-WONDER 128 PROのように、テレビ出力やテレビチューナーなどの付加機能はとくに搭載されていない。基板上にはセカンダリディスプレイコネクタ用のパターンが一応残されているが、デュアルヘッドのモデルは発売されていない。

デュアルチップの劇的な効果

ベンチマーク結果を見ると、デュアルチップの効果は絶大であることが分かる。シングルチップ動作時と比較すると、30~60%ほど速度が向上している。そして解像度が高ければ高いほど、色数が多ければ多いほど、速度向上率は高い。2/15号の/Vmag.exPRESSで報告したときには、デュアル動作時で不意な結果を残していたが、今回使用したドライバ(Ver.4.11.2449)では大きく改善されている。

またATIテクノロジーズの情報によれば、同一解像度において16ビットカラーと32ビットカラーの速度差は5%程度に収まるとされているが、今回のベンチマークテストでは10~20%ほど差が出ている。ただしデュアルチップ化による速度向上は、32ビットモードでの速度低下を十分覆い隠しているの、トータルとして見ればまったく問題にならない。また、参考としてRIVA TNT2を搭載したビデオカード(ELSA Synergy II)の結果も併記したが、RAGE FURY MAXXのほうがはるかに高速であることが分かる。2D性能については、前述のとおりシングルチップ動作になることから、どちらも似たような結果を残している。

デュアルチップの効果は非常に高く、高解像度、多色環境においてゲームを楽しむユーザーにも十分満足のいく製品だ。(伊勢雅英)